

地域で見守る互助・共助の取り組み
事例をまとめました。
ご参考にしてください！



社協マスコットキャラクター
つむぎちゃん

見守り安心 ネットワーク 事例集



令和3年1月

社会福祉法人 松本市社会福祉協議会

【見守りの必要性】

高齢や障害のある方、一人で介護をしている方、生活に困窮している方、育児に悩み疲れを感じている方など、何らかの支援を必要としている方を、支援する体制づくりが必要になっています。また、いざという時に困らないよう、あらかじめ関係機関との連携を図り、安心して活動ができるネットワークも必要です。

【松本市社会福祉協議会のサポート】

松本市社会福祉協議会では、地域からの要請に応じて「見守り安心ネットワーク事業」により次のとおり地域の見守り活動をサポートします。

- (1) 地域福祉推進会議による地区支援
(地区担当者及び地区生活支援員の地区活動の支援)
- (2) 松本市避難行動要支援者名簿及び支援者地図の活用
- (3) 情報提供先（町会、民生児童委員、地域包括支援センター等）及び地域づくりセンターと連携
- (4) ガイドラインを活用した説明会（町会単位）の実施
- (5) 関係者の共感を高めるための支援（防災出前講座等の開催）
- (6) リーダー、協力者及び支え手の人材確保
- (7) 専門職、関係機関との調整
- (8) ネットワーク事例や実践者の紹介
- (9) 避難行動要支援者地図を活用したネットワークマップ作り支援



見守り安心ネットワーク事例集 もくじ



見守りの必要性和松本市社会福祉協議会の

サポートについて

高齢者の見守り



- ・内田地区 こんにちははふれあい健康訪問 …P1
- ・本郷地区横田第1町会
見守り安心ネットワーク …P2
- ・奈川地区 奈川のほっとライン …P3

子どもの見守り



- ・笹賀地区 笹賀子ども安全サポーター …P4
- ・本郷地区 黄色いハンカチ見守り隊 …P5
- ・四賀地区 地域パートナー・スクール …P6

地域の見守り



- ・鎌田地区高宮町会
見守り安心ネットワーク事業 …P7
- ・里山辺地区 地域見守り隊 …P8

※この事例集は松本市内の各地区・町会より事例提供のご協力をいただき
作成しております。ぜひご参考にしていただき、ご活用ください。

また、地区担当職員にもお気軽にご相談ください。



高齢者の見守り

内田地区 こんにちはふれあい健康訪問

活動内容

一人暮らしの後期高齢者を対象に、お茶やお菓子などちょっとした手土産を持参しながら元気な姿を確認し、困りごとなど話を聞く。

- ・対象者をリストアップし、年3回程程度訪問
- ・新規者にはアンケート調査を実施
- ・訪問希望者は、次回以降も定期的に訪問を行う



始めたきっかけと準備

内田地区地域ケア会議等で、見守り体制の強化を優先課題に掲げ、検討が重ねられ、民生委員・児童委員の活動を補助するための町会独自で情報収集をして戸別訪問を行う取り組みとして平成30年7月から、行われている。

対象とする人たち

- ・75歳以上の高齢者で、見守りが必要と思われる単身世帯の方
- ・80歳以上の老々介護世帯

関わっている人たち

- ・町会長会
- ・民生委員・児童委員
- ・健康づくり推進員



活動する上での工夫

- ・手土産（お茶など）を持参していく
- ・情報を共有して、町会長、民生委員・児童委員、健康づくり推進員が連携すること

活動者の声

活動者数など課題はたくさんありますが、取り組みとしては意義のあることだと思います。これからどのように「意味のある」活動として広めていけるか考えています。

今後に向けた課題など

今後、「避難行動要支援者名簿」をどう生かしていくかが課題。
活動者数が少ない。



高齢者の見守り

本郷地区横田第一町会

見守り安心ネットワーク

活動内容

- ネットワーク名簿の作成
- 雪かき援助
- 救急時、災害時等の避難援助



始めたきっかけと準備

平成26年11月22日に発生した
県北部地震の際、地域全体で助け合い
(互助) 死者を一人も出さなかったこと
に触発されたことがきっかけ。町会でも
見守りをすべきであると考え、ネットワ
ーク名簿作りを行った。

対象とする人たち

- 孤立しがちな80歳以上一人暮らし
- 80歳以上夫婦二人暮らし

関わっている人たち

- 町会長
- 民生委員・児童委員



今後に向けた課題など

町会の高齢化が進み、協力員が見守っ
てもらう立場になってきている。協力員が不
足してきている。

毎年、ネットワーク名簿を更新している
が、その都度協力員に確認していくことが
必要と思われる。最近は災害が多く、いつ
誰がどんな事態になるか分からないため、
高齢者だけではなく障がいのある方や生
活弱者の方、赤ちゃんのいる家庭など広範
囲で見守っていきたい。

活動をする上での工夫

中には、見守りをしてもらう事を拒む方
もあり、その様な方は無理せずにネットワ
ーク名簿に希望なしと記入。

また、見守る側として、特に若い方に協
力をお願いしている。

活動者の声

ご近所の高齢者同士でお互いを助け
合って頑張っている方たちもいる。
活動の中で「感謝しています」と
言ってくると励みになる。



高齢者の見守り

奈川地区 奈川のほっとライン

活動内容

目的：一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増加する奈川地区において、当該世帯とその近隣住民が安心して生活するため、当該世帯における緊急時の連絡体制を確立すること。登録料等は、無料。地区社協の財源で行う。

申込方法：「奈川のほっとライン」を希望する方は、記入した登録書を、奈川地区社会福祉協議会へ提出する。奈川地区社会福祉協議会では、登録手続きを行い、本人（対象者）に登録証及びシールの配布を行う。

保管場所：登録申込書は、奈川診療所内で厳重に保管する。

保管期間：登録した日から何らかの理由で保管の必要がなくなるまでの間とする。

緊急時などの連絡：緊急時に連絡先の確認が必要になった場合は、診療所で対応する。

始めたきっかけと準備



はじめに、ふるさと奈川をおこす会健康福祉部会で、診療所の先生から、離れて暮らす家族とつながりたいという話があった。また、奈川地区は、一人暮らしをされていて、少し体調が悪くなると、近所には迷惑をかけられないと、遠く離れた家族が心配し、施設入所を考える傾向が多く、住み慣れた地域で最期まで暮らすということができない傾向があった。そこで、ふるさと奈川をおこす会健康福祉部会では、何とか家族が安心して、高齢者が奈川で長く暮らせる仕組みをつくろうと考え、「奈川のほっとライン」をつくった。準備として、奈川地区に関わる職員でどのようにするか会議を行い作成した。

対象とする人たち

- ・一人暮らし高齢者
- ・高齢者世帯の方
- ・希望する方

関わっている人たち

- ・奈川診療所
- ・奈川地区社会福祉協議会

活動する上での工夫

玄関などに貼るシールを配布。内容「奈川のほっとライン 登録証 緊急時は奈川診療所へ 診療所の電話番号が記載されている」

活動者の声

今後に向けた課題など

診療所の先生は、元気である高齢者世帯の方にも、いつ何が起こるかわからないので、登録してほしいとおっしゃっていた。

民生委員だけでなく、診療所の先生とつながる安心がある。部屋の中で倒れている方がいて、家族の連絡先がわからなかったが、診療所に連絡することで、スムーズに事が運んだ。





子どもの見守り

笹賀地区 笹賀子ども安全サポーター

活動内容

- ・登下校時の子ども達のまわりに不審な人物や車がないか注意
- ・1人で歩いている子どもや夕方になっても遊んでいる子どもがいたら声をかけて注意
- ・腕章、帽子、ジャケットをつけて、周囲に防犯活動をアピール
- ・できるだけメモや携帯電話を携帯
- ・普段から寂しそうな場所や暗い場所に注意
- ・二子小感謝の会、菅野小交流会、菅野中避難訓練への参加
- ・二美町2丁目町会では新入生の交通安全指導実施



始めたきっかけと準備

平成17年「笹賀地区子ども会育成会」総会での二子小学校長のミニ講演会「笹賀地区の防犯及び不審者対策の取り組み」の講話を機として安全サポーターの必要性を検討。同年に、協力員の募集及び説明会を開催し、平成18年より活動をスタート

対象とする人たち

菅野小学校 菅野中学校
二子小学校 (信明中学校)

関わっている人たち

- ・賛同していただいたボランティア
- ・公民館
- ・子ども会育成会

活動する上での工夫

言われてやるのではなく、自ら進んで接したり考える自主性を尊重していくことで個人の活動の意識を高めている。
エリアに分けた、独立した組織づくりを行い、より自主的なボランティア活動を目指す。事業が円滑に進むように、公民館が支援する。

今後に向けた課題など

(町会にかかわらず) 地域全体活動に向けた更なる啓発・啓蒙活動が重要

活動者の声

子ども達も待っていている。
お互いの見守りになるし、やりがいにもつながっている。



子どもの見守り

本郷地区 黄色いハンカチ見守り隊

活動内容

- 本郷小学校児童の登下校を見守る。
- 黄色いハンカチをもって、子どもたちの交通安全を見守りながら、にっこり微笑んでいただいたり、できれば挨拶したりします。



始めたきっかけと準備

平成16年に本郷小学校3年生が下校途中で交通事故に遭い、尊い命を落としました。亡くなった児童のご両親は「うちの子が、もう少し大きくて目立つことができていたら事故に遭わなかったかもしれない」と悔やんだそうです。その思いを受け止め、学校とPTAが子ども達の安全を守るために「黄色いハンカチ」を購入し、横断の際は挙げた指先に持つことで交通事故に遭わないように、そして、このような事故が二度と起こらないようにと黄色いハンカチを身に着けています。

対象とする人たち

本郷小学校児童

関わっている人たち

地域づくりセンター
本郷小学校
協力者

活動する上での工夫

無理せず、出来る日、出来る時間で行う。
自然なあいさつ、気軽な声かけができるよう顔見知りになる。
特に下校時は、子ども達が解放感から元気になるので、車に注意するよう声かけする。



今後に向けた課題など

活動を持続するためには、複数の人で行い、活動をする人の情報が聞ければ心強いし、励みになる。また、学校、育成会との連携、情報交換も必要である。

活動者の声

子どもたちの「おはようございます」の元気な声を聞くとうれしくなり、逆に元気をもらいます。



子どもの見守り

四賀地区 地域パートナー・スクール

活動内容

中学生が見守りをしている事例。
会田中学校の生徒が通学途中、高齢者宅の可燃ごみを収集し、ごみステーションまで持って行く。
ごみがあるなしに関わらず、朝、顔を見てあいさつする事での見守り活動



始めたきっかけと準備

平成29年に会田中学校より、「何か地域に関われることはないか」との相談があったが、すでに夏祭りや文化祭、駅伝などの行事参加はしていた。
また休日はそれぞれ予定があり、なかなか難しい現状があった。そこで「朝の通学途中にごみ出しならできる」とのことから、早速地区の民生・児童委員のみなさんに、各地区で生徒の通学路でゴミ出しに困っている方をピックアップしてもらい、始まっている。

対象とする人たち

ごみ出しを
希望する高齢者
(老々世帯・
一人暮らし世帯)

関わっている人たち

中学校生徒(希望者)
民生委員・児童委員

活動する上での工夫

バス通学の生徒は、
自宅からバス停までの間に利用者宅やごみステーションが無く、なかなか活動が難しい。

活動者の声

今後に向けた課題など

各地区に中学校生徒が減っていること、また周りから「やらせる」のではなく、自分から希望する生徒の継続。

「重い日もあるけれど、感謝のメッセージが添えてあるときもあって、やっていて良かったと思う」
「他の地域にも困っている人はいる。輪が広がっていったら」と願っている。



地域の見守り

鎌田地区高宮町会 見守り安心ネットワーク事業

活動内容

- (1) 避難行動要支援者名簿の整備
新規登録者と既登録者の内容変更を加除し台帳を整備、状況把握
- (2) 独り暮らし高齢者等の日常の見守り活動
雨戸、カーテンが開かないか？夜になっても灯りがつかないか？
新聞が溜まっていないか？あいさつ、声掛け、話し相手
- (3) 児童生徒への見守り
登下校時に児童の見守り、あいさつ、声掛け
- (4) 支えあい雪かき支援（積雪15cm以上）
高齢者宅の除雪（隣組）、登下校時通学路の除雪（町民、PTA、企業）



始めたきっかけと準備

- ・高宮分会では「ふれあい健康教室」と「支えあい雪かき支援」のみが活動事業とされていた。
- ・見守り安心ネットワーク事業を5W1Hでわかりやすくしてみた。

対象とする人たち

- ・独り暮らし高齢者
- ・障害者
- ・児童生徒

関わっている人たち

町会役員	民生委員・児童委員
社協分会役員	PTA
隣組	町民
企業	



活動する上での工夫

- ・誰でもが集える身近な公民館が拠点
- ・おしゃべりで絆を深める雰囲気づくりにランチ（同じ釜の飯）を無償で提供
- ・3世代交流の機会をつくり誰もが顔見知り

今後に向けた課題など

- ・少子高齢化時代を迎え災害時に対処できるマンパワー不足の解消
- ・古くからの住民と新しい住民との融和・新しい絆の創出による住み良いまちづくり

活動者の声

一人で頑張るじゃ大変！
皆で役割を分担、お互いを理解・尊重し合える素敵なまちづくりを！



地域の見守り

里山辺地区

地域見守り隊

活動内容

地区内の危機管理対策の一環として、小中学生や一人暮らし高齢者、日中だけ一人になる高齢者等を見守っていく。

地域見守り隊のビブスを着て散歩をしたり、あいさつをしていただくなど、都合がつく範囲で活動をしていただく。



始めたきっかけと準備

孤立、孤独など地域の繋がりが薄れてきている。

地域のきずなが強くなることで異変に気づきやすくなり災害時における住民同士の助け合いにも繋がる。

町会回覧をして見守り隊隊員を募集したり、町会長に協力してもらい各町会から隊員を募集した。見守り隊ビブスを発注したりボランティア活動保険に加入してもらった。

対象とする人たち

- 小中学生
- 高齢者など



関わっている人たち

- 地域づくりセンター長
- 地区公民館
- 地区生活支援員、
- 東部包括支援センター

活動する上での工夫

無理のない範囲で自分のできる時に行ってもらおう。研修会を行い、何をすればいいのか、異変に気づいた時の対応などを説明した。

今後に向けた課題など

令和2年9月からの見守り隊活動なので、まだ活動状況がわからないことが多い。今後の周知も工夫したい。

活動者の声

家の中にひとりであるより、皆さんと話がはずんで楽しかった。「こういった活動ならできる」。今後につなげていきたい



みんなでつくる
ともに生きる地域の心を

お問い合わせ、ご相談は・・・

〒390-0833

松本市双葉4番16号（松本市総合社会福祉センター内）

社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 地域福祉課

電話 27-3381

FAX 27-2239

e-mail chiiki@syakyo-matsumoto.or.jp